

子どもの将来のために、周囲との協力も重視 ミレニアル世代夫婦の育児行動と意識

生活者研究部

ミレニアル世代（1980年頃から1990年代半ばに生まれた、現在20代後半～30代の人たち）は、インターネットの普及と共に成長した「デジタルネイティブ」であり、SNSを上手く活用し、情報リテラシーが高く、日常生活において効率志向も強い世代といわれています。また、中学・高校の家庭科男女共修により、父親の家事・育児参加も定着してきています。今回の調査では、彼らが子どもの将来のために、周囲と協力し合う育児を意識している様子が見られました。ミレニアル世代の夫婦の育児の傾向や工夫、その背景にある彼らの育児へのおもいを報告します。

- 育児も家事も「夫婦で仲良く、笑顔で」
- 父親の育児参加の広がり
- 育みたいのは「自分らしさや社会性、思いやり」
- ミレニアル世代の子育て<事例>
- withコロナの暮らしの変化は育児にも影響
- 変化の時代も夫婦で笑顔の子育て

【調査概要】

「子育て世代の育児実態と意識」

調査期間：2017年7月
 調査方法：インターネット調査
 調査対象：全国20～39歳既婚女性
 末子0～24カ月／夫婦と子からなる世帯
 回答者数：母親 800人

【調査概要】

「育児オンラインインタビュー」

調査期間：2020年7月
 調査方法：オンラインインタビュー調査
 調査対象：全国25～39歳 夫婦と子の3人世帯
 対象者数：5世帯

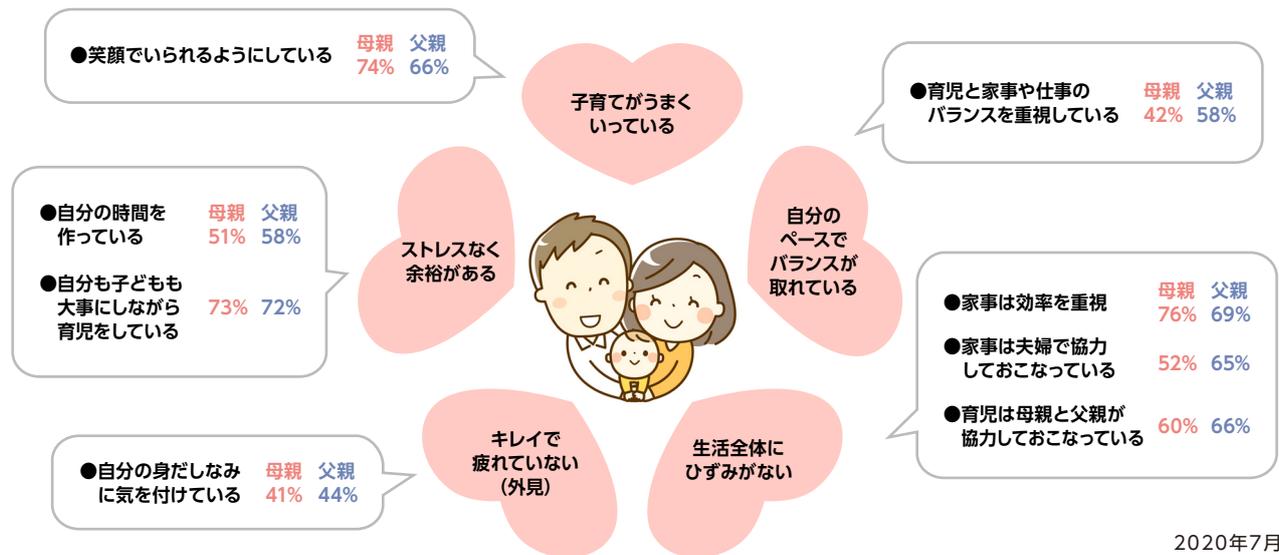
【調査概要】

「ミレニアル世代の育児実態と意識」

調査期間：2020年7月
 調査方法：インターネット調査
 調査対象：全国既婚男女25～39歳
 第一子3～24カ月／夫婦と子の3人世帯
 回答者数：母親 324人、父親 303人

育児も家事も「夫婦で仲良く、笑顔で」

ミレニアル世代の母親は「自分を大事にしてこそ、母親としても輝ける」というおmoiから「仕事も育児も自分の時間も大切にしたい」と考えています。子育て中でも「自分の時間を作っている」(51%)、「自分も子どもも大事にしながら育児をしている」(73%)など、自分のストレスコントロールを意識し、「家事は効率を重視」(76%)、「家事は夫婦で協力しておこなっている」(52%)など、ゆとりを持つことで、「家族のためにも笑顔のママでいる」ことを心がけていました(図1)。その傾向は、2015年の調査(2016年5月『新米ママの子育てライフ 無理をしないで私らしく向き合いたい』<https://www.kao.co.jp/lifei/life/report-22/>で報告)と変わりませんでした。



(図1) 笑顔で子育てできる要件

2020年7月
 全国25～39歳 第一子3～24カ月 夫婦と子の3人世帯
 母親324人、父親306人(花王 生活者研究部調べ)

この世代の父親は「育児も家事もするのが当たり前」という意識が定着してきており、母親同様「育児・家事・仕事」のワークライフバランスを重視しています。「育児は母親と父親が協力しておこなっている」(66%)、「育児と家事や仕事のバランスを重視している」(58%)と、父親が「やらされている」「手伝っている」意識ではなく、育児に自発的に向き合う傾向がみられます(図1)。さらに、母親の負担過多を心配し、「育児について調べる」「離乳食を作るところから協力する」などで、負担の軽減に努める様子もみられました。父親も母親と同じように、「夫婦で協力し合い、笑顔で仲良く子育て」をすることを望んでいるようです。

父親の育児意識 ～母親の負担を減らしたい～

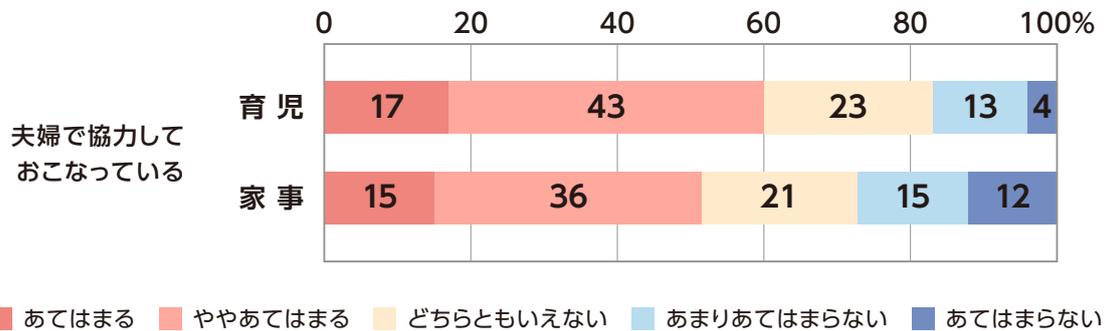
調べる

- 離乳食は妻が調べて作っているが、自分も調べれば、妻の負担が減る。(30代、父親)
- 紙おむつは、妻が子どもの様子を見て、相談をして決めた。おしりふきは、僕が調べて妻に提案した。(30代、父親)

離乳食を作る

- 妻と自分の食事は作るが、子どものご飯は、あげただけなので、作ることもしたい。(30代、父親)
- 離乳食はまだ作っていないので一緒にやっていく必要がある。(20代、父親)

母親の「育児と家事の夫婦協力意識」を見ると「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた割合は、家事では51%、育児では60%となっており、育児の方が家事よりも夫婦の協力度が高いと、母親から認識されているようです(図2)。

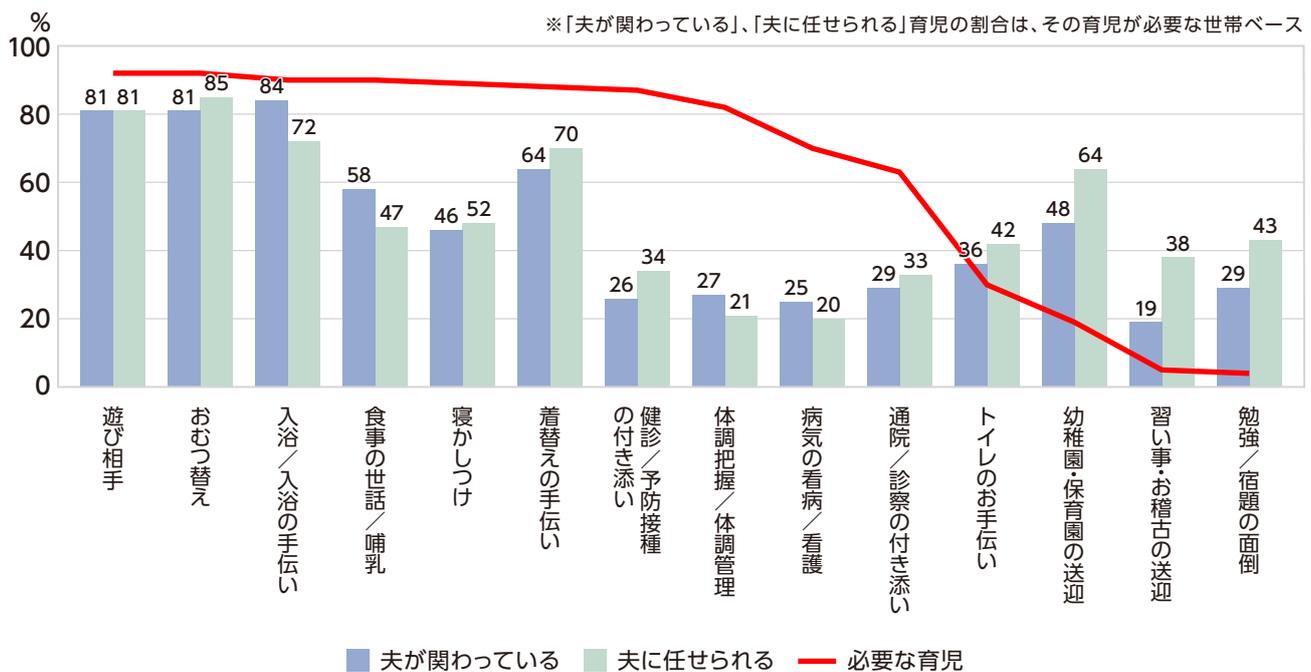


2020年7月 全国25～39歳 第一子3～24カ月 夫婦と子の3人世帯 母親324人 (花王 生活者研究部調べ)

(図2) 育児と家事での夫婦協力意識

父親の育児参加の広がり

母親が必要だと考える育児のうち、夫が関わっている割合が高い「遊び相手」(81%)、「おむつ替え」(81%)、「入浴／入浴の手伝い」(84%)などは、母親も「夫に任せられる」と感じている割合が高い傾向にあります(図3)。「健診・予防接種」「体調不良時の看病」などは、まだ母親が担うことが多い状況は変わらないようですが、父親の育児は、意識だけでなく行動も伴ってきている印象を受けます。



※「夫が関わっている」、「夫に任せられる」育児の割合は、その育児が必要な世帯ベース

2020年7月 全国25～39歳 第一子3～24カ月 夫婦と子の3人世帯 母親324人 (花王 生活者研究部調べ)

(図3) 夫が関わっている育児と夫に任せられる育児

また、2017年と2020年の夫が関わっている育児の割合を比較してみると、「遊び相手」(75%→81%)、「おむつ替え」(74%→81%)、「入浴／入浴の手伝い」(77%→84%)、「寝かしつけ」(36%→46%)、「健診・予防接種の付き添い」(20%→26%)、「体調の把握／管理」(20%→27%)など、ここ数年で、さまざまな育児において増加しており(図4)、夫が関わる育児の範囲が広がっている傾向が見られます。

「必要な育児」上位8項目		
	2017年	2020年
遊び相手	75%	81%
おむつ替え	74%	81%
入浴／入浴の手伝い	77%	84%
食事の世話／哺乳	55%	58%
寝かしつけ	36%	46%
着替えの手伝い	64%	64%
健診・予防接種の付き添い	20%	26%
体調の把握／管理	20%	27%

赤字：2017年に比べ5%以上増加
 ※「夫が関わっている」育児の割合は、その育児が必要な世帯ベース

2017年7月 全国20～39歳 末子0～24カ月 夫婦と子からなる世帯 母親800人
 2020年7月 全国25～39歳 第一子3～24カ月 夫婦と子の3人世帯 母親324人
 (花王 生活者研究部調べ)

(図4) 夫が関わっている育児の比較(2017年、2020年)

父親の育児関与が広がり、『父親も育児をするのが当たり前』という意識も定着しつつある中、「父親＝育児に参加しない、などと、ひとくくりにされているのが腹立たしい。(30代、父親)」「母子手帳や予防接種の用紙の記入が全て母親なのはなぜか。(30代、母親)」などの意見がありました。また、「自分の子の育児をするのは当たり前。イクメンという言葉がどうも好きになれない。(30代、母親)」、「イクメンという言葉に疑問を感じる。メディアではやし立てたり、男親の自己満足の言葉だと思う。(30代、父親)」など、旧態依然とした育児観に違和感を感じるという声が、母親からも父親からも聞かれました。

育みたいのは「自分らしさや社会性、思いやり」

ミレニアル夫婦へのインタビューでは、将来は子どもに、「自分らしさ、自己肯定感」「社会性や思いやりのある優しさ、コミュニケーション力」を身につけてほしいというおmoiが共通していることが印象的でした。子どもの情緒や社会性を育むためにも、両親だけで育児を抱え込むのではなく、祖父母にも協力してもらい、保育園・近隣コミュニティと積極的に関わり、さまざまな体験や経験、興味を持たせる機会を持ちたいと望んでいます。



調査データでも「育児は両親だけでなく、ファミリーサポート、保育士など、皆が関わり合っておこなっている」と感じている母親は46%、父親では52%、周囲との関わりの中で育児をしているという意識を持っています(図5)。育児で周囲の手を借りることは、自分たちが余裕を持って子どもに接することができるだけでなく、「小さい頃から多様な人と接することでいろいろな刺激を受ける」「地域や同世代との関わりは子の社会性を育む」など子どもの将来にも良い効果が得られると考えているようです。



2020年7月 全国25~39歳 第一子3~24カ月 夫婦と子の3人世帯
 母親324人、父親306人(花王 生活者研究部調べ)

(図5) 育児における周囲との関わり

ミレニアル世代の子育て<事例紹介>

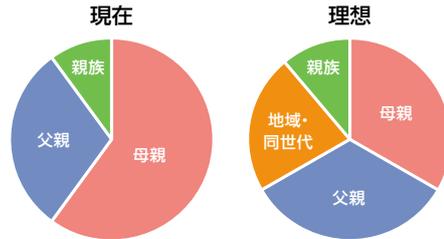
第一子を育てるミレニアル世代夫婦へのオンラインインタビューから、子どもの将来をおもい、協力し合っ
て育児する様子や、これからの育児に対してのおもいなどを紹介します。

【事例1】Sさん家族：理想は「杉浦太陽」「子どもを尊重する親」



父親：28歳(公務員、1ヶ月育休取得経験)
母親：26歳(会社員、育休中)
娘：8カ月

育児負担の状況 (父親視点)



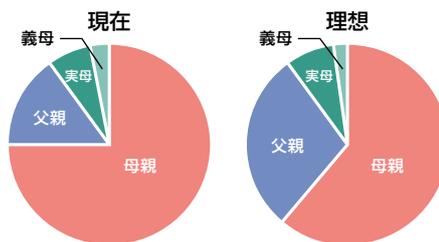
	父親	母親
育児へのおもい	杉浦太陽・辻希美夫妻のように、2人で育児に携われるのが理想。 父、母、親族だけでは社会性を育むことはできないと思うので、 <u>地域や同世代との関わりは必要</u> になる。	自分の母にいろいろ押し付けられるのが嫌だった。 <u>できるだけ本人を尊重して、寄り添いたい</u> 。 夫は本当にいろいろやってくれ、 <u>少し自分の育児負担を増やしたい</u> 。
子どもの将来に望むこと	自分に嘘をつかない、 <u>当たり前のことをちゃんとやる</u> 子になってほしいから、「 <u>食事中に遊ぶのはダメだよ</u> 」とかははっきり伝える。 理想的には、 <u>正義感があり自分の考えを大切に</u> する妻のような女性に育ててほしい。	<u>健康であることと自分を大事に思える子</u> に育ててほしい。 何かを押し付けるのではなく、 <u>親はよき理解者、サポーター</u> 。本人がしたいことに「ダメ」とは言わずに <u>済む環境を整えたい</u> 。

【事例2】Nさん家族：理想は「自分の父」、「自分の母」



父親：32歳(会社員)
母親：31歳(専業主婦)
娘：5カ月

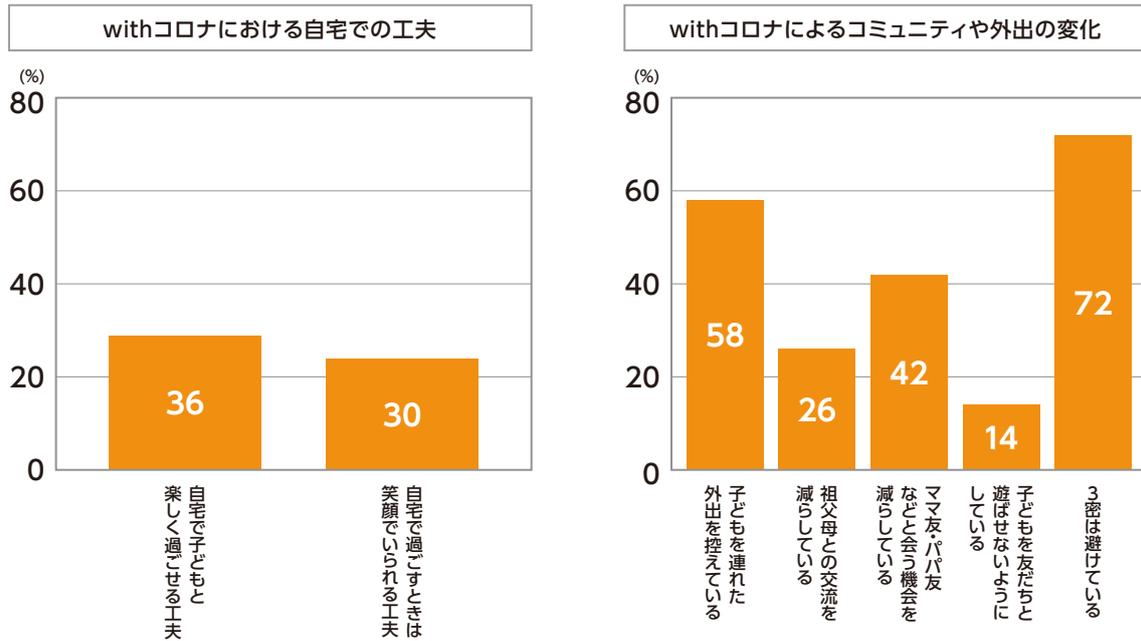
育児負担の状況 (母親視点)



	父親	母親
育児へのおもい	「自分の父」のように、 <u>ある程度子から尊敬される父</u> になりたい。平日は仕事で目いっぱい体力を取られたが、 <u>自分も含め育児に関わる人</u> を増やしたい。テレワークになり育児に参加しやすくなった。	<u>仕事にも育児にもパワフルだった「自分の母」</u> はすごいと思う。義母には、べったりは頼れない。夫がテレワークになり、夜や休日は家事・育児を手伝ってもらえる。でも <u>もっと夫や実母に頼れるのが理想</u> 。
子どもの将来に望むこと	「芸は身を助く」という言葉が好き。 <u>好きなこと・気になること</u> をとことん追求して、5教科平均点を取るより、 <u>1教科でも飛びぬけた方が将来的には役立つ</u> 。子どもの教育についてはよく考えたい。	<u>健康で、自己肯定感を持ってほしい</u> 。いろんなことに挑戦し、 <u>子どもには好きなことを最後まで習わせた</u> い。物心がついたら、国内外を問わずいろんな場所に連れて行ったら、いろいろ感じられるかな。

withコロナの暮らしの変化は育児にも影響

2020年春から続く新型コロナウイルス流行は、育児にも大きな影響を与えています。外出制限やリモートワークによって、自宅で過ごす時間が増えたことで、子どもとのおうち時間を楽しくする、遊ぶ環境を工夫するといった良い影響が見られました。その一方で、外出自粛により、「子どもを連れた外出を控えている」(58%)、「祖父母との交流を減らしている」(26%)、「ママ友などとの会う機会を減らしている」(42%)など、祖父母やママ友、子どもの友だちとの交流を意識的に減らすという大きな変化もありました(図6)。彼らは、周囲との交流が激減したことが、子どもの成長や情緒育成、コミュニケーション力の発達に影響を与えないかと不安視していました。



(図6) コロナ禍での暮らしの変化

2020年7月 全国25～39歳 第一子3～24カ月 夫婦と子の3人世帯 母親324人 (花王 生活者研究部調べ)

家の中での工夫

- おうち時間をいかに楽しませるか、家で楽しめる工夫を一生懸命に考える毎日です! (20代、母親)
- 部屋の中で遊ぶ環境を充実させるようになった。(30代、母親)
- 子どもとの時間がとても増えた。この時間は今だけだと思い、子どものことを考えた生活を心がけた。(20代、母親)

外出に関する変化

- 遊びに行くのも広い公園にするなど気をつけている。(20代、母親)
- 乳幼児なので、できるだけ人と触れ合っほしいが、人との接触を避けるため、コミュニケーションの取り方を考えるようになった。(30代、父親)
- ママ友に会えなくなり、今の月齢でどのくらいのことができるか、よくわからなくなった。(20代、母親)

また、ママ友との交流や情報交換の激減による育児不安軽減のために、SNSで同じ月齢の子どもを持つ母親と繋がったり、WEBの育児コミュニティで相談したり、アドバイスし合うという工夫もみられました。

Instagramで赤ちゃん用のアカウントを作った。同じ誕生日、同じ月齢のママが世の中にいっぱいいるから、やりとりをして参考にさせてもらっている。(30代、育休中)

予防接種も健診も距離をとって座るのでママ友はできない。Instagramで同じような月齢の子のアカウントを見たり、育児に関するブログを読んだりする。(30代、専業主婦)

子育てのサイトで、注射のこと、離乳食のこと、おむつのことなど相談し合える。困ったことがあれば気軽に書けるので、そこで結構助けられている。(30代、育休中)

変化の時代も夫婦で笑顔の子育て

新型コロナウイルスの流行で始まった新しい生活様式により、手洗い励行、マスク着用といった衛生行動だけでなく、人とのコミュニケーションの取り方に至るまで、私たちはさまざまな暮らしの変化を強いられています。2020年に調査したミレニアル世代の母親、父親(いずれも第一子の子育て中)からは、「初めての育児」の不安に加え、未体験の「新しい生活様式の中での子育て」と、二重の不安を感じながらも、夫婦で協力し、いろいろな工夫をしながら対応している様子がうかがえました。

これからも、健やかな子どもの成長を願うミレニアル世代の母親、父親たちが、「夫婦で協力し合い、笑顔で仲良く子育て」するおもいに寄り添い、子育て中の夫婦や周囲の見守りに関わる人たちの日々役に立つ情報を届けていきたいと考えます。

親子で スマイルコミュニケーション デザイン

おむつ替えはお世話をするだけでなく、親子の大切なコミュニケーションの時間でもあります。「今からおむつを替えるよ」「きれいになったね」など、赤ちゃんに話しかけながらおむつ替えをすると、赤ちゃんの社会性(他者との関わり)の発達に良い影響があることもわかってきました。

おむつ替えをしながら、どんな些細なことでもいいので赤ちゃんに話しかけてみましょう。おむつの絵柄も会話のきっかけの一つになりますね。まだ言葉を理解していない赤ちゃんでも、話しかけてもらうことは言葉の発達に重要です。忙しい子育ての中、単純作業になってしまいがちなおむつ替えの時間ですが、ぜひたくさん話しかけて、親子のコミュニケーションの時間にしてみてくださいね。

こんな風に話しかけてみてね!

スマイルコミュニケーションデザインは全部で21種類※♪

※S-ビッグサイズまでの合計

いないいないばあ



監修：矢藤 優子(やとう ゆうこ)
立命館大学教授／博士(人間科学)

大阪大学大学院人間科学研究科 博士課程後期課程 修了。専門は比較発達心理学。行動観察に基づく乳幼児と養育者の社会的関係性などについて研究している。

▶ https://www.kao.co.jp/merries/products/pants_design/

●お問い合わせ・ご意見は **花王株式会社 生活者研究部**

〒131-8501 東京都墨田区文花 2-1-3 TEL. 03-5630-9963(月～金 9:00～17:00) FAX. 03-5630-9584

くらしの研究 www.kao.co.jp/lifei/

※掲載の記事・写真の無断掲載・複写を禁じます。